

希望の

名古屋圏は

可能か

危機から出発した
将来像

塩見治人・井上泰夫・向井清史・梅原浩次郎 編

「希望学」の立場から見た
名古屋圏の将来像とは。
そして、2030年に向けた
雇用・仕事・文化創出への道筋とは。

定価（2000円＋税）
風媒社・刊



9784833111249



1920036020003

ISBN978-4-8331-1124-9

C0036 ¥2000E

定価(本体**2,000**円+税)

風媒社

……希望学は行動する意思を強く要求する。希望学はいつでも自分なら
どうするという当事者意識をもって、ものを見て、考え、さらにささやか
であっても外に向かって働きかけることを必須のこととしている。希望
学では、たとえ行動が失敗であっても、それはひとつの「実現」なのだ。
また希望学では行動が人と人とのつながりをつくりだすのだ。

われわれは本書で、以上のような希望学の理解に立って名古屋圏を観
察し、その視座からの認識を伝えることにする。……本書より

はしがき

本書は、新しい学問「希望学」という立場からは名古屋圏がどのように見えるのか、この立場から名古屋圏の2030年への将来像とは何なのか、を伝えようとしている。

もちろん名古屋圏については、これまでに地域内の行政機関、業界団体、新聞・雑誌などのメディア、さらに大学、研究所やシンクタンクなどからの多くの問題提起やヴィジョンがある。しかしながら、これらの多くはわれわれのいう「発展学」というアプローチによってなされていると言えるのであり、われわれの名古屋圏への希望学の視座とは異なるのである。

それではわれわれの希望学は、名古屋圏の現在をどのように見て、名古屋圏にどのような可能性を見つけたのであろうか。それについては、序章と第1編の3つの章を踏まえて行われている本論の各章でのメッセージによって示されることになる。

われわれの地域研究会は、2008年のリーマンショックと2009年のトヨタショックによる名古屋圏の動揺・混乱をうけて2009年春に発足して、足かけ10年間続いている。この間、2011年にトヨタショックの名古屋圏への影響を立体的に捉えようとした第1作目『トヨタショックと愛知経済』（見洋書房）、さらに2013年には名古屋圏にある大企業・中小企業・伝統産業の「外へのグローバル化」と名古屋圏そのものの「内なるグローバル化」の全体像を捉えようとした第2作目『名古屋経済圏のグローバル

化対応』(同)を上梓してきている。本書はこれらを受けた第3作目である。先回の共同研究を終えた後の打上げ会の席で、自ずと、つぎには名古屋圏の将来像を考えたいという雰囲気醸成されていった。ここからわれわれの共同研究会は、いつの間にか、希望学研究会へと進展して、その活動が本書に集成されることになった。

本書では、われわれ希望学研究会のメンバーのほかに広く名古屋圏の各部面の第一線で活躍の文化人の方々にも参加いただいて、この地域の持つ可能性について自由に自説を展開いただいている。これらの方々との本書での出会いは、われわれの大きな喜びとするところである。

こうして本書は、全体として、発展学ではない別の名古屋圏の将来像を模索した成果といえるのである。その晩年、ベートーヴェンは大作『ミサ・ソレムニス』の手稿楽譜の冒頭に、「心よりいず、願わくば再び心に至らんことを」と、この作曲の指導的な理念を書き込んでいた(ベートーヴェン『音楽ノート』岩波文庫、93ページ)。われわれのこの共同研究も、そのように名古屋圏のそして全国の皆さんの手元へ届けられるように願っている。

2018年4月6日

本書の編著者を代表して

塩見 治人

口絵 i

はしがき

序 希望の名古屋圏を考える

第1編●地域社会を見る目

23

1 希望の経済学の可能性

2 地域社会の再生とNPO

3 経路依存性と名古屋圏

第2編●中小企業や伝統産業でも生き残れる

111

1 伝統的木型工業のままで生き残る——何もしない強み——

2 ビジネスモデル・チェンジによる新生——有松鳴海絞産業の希望——

3 伝統技術の高度化による多市場への進出

——一宮地域は幾多の危機を繊維の技術で乗り越える——

塩見 治人 1

塩見 治人 10

井上 泰夫 24

向井 清史 39

塩見 治人 24

濱島 肇 112

梅原浩次郎 132

松本 正義 154

4 成熟社会における新製品開発 —車いす産業が創り出す希望—

宇佐見信一 175

5 技術革新による3K職場の改革 —農業における希望—

岡田 英幸 195

第3編 ● 地域文化の創生 213

〔文学〕

1 進化と成熟を追求する

亀山 郁夫 214

2 和歌の伝統が息づく名古屋文化

—『万葉集』サロンでの35年間のレクチャーをとおして—

竹尾 利夫 222

3 地域文化発信のひとつの姿勢とその可能性

—稲垣さんの「風媒社」と同人誌『遊民』をめぐって—

三嶋 寛 232

〔音楽〕

4 地域文化の創生 愛知を、名古屋を、オペラタウンに

—オペラサロンでの22年間・100演目のレクチャーをとおして—

都築 正道 244

5 名古屋マラー音楽祭までの道のりと今後の展望

— 10 のアマチュアオーケストラと 12 のアマチュア合唱団が参加した

マラー交響曲 10 曲の全曲演奏会の企画・運営—

西村 尚登

251

6 愛知祝祭管弦楽団「アマチュアオーケストラのリング」という奇跡への軌跡

— ワーグナー《ニーベルングの指輪》4 部作全曲演奏会の企画・運営—

佐藤 悦雄

258

7 くらしの中にクラシック — 日本一公演回数が多いクラシックホールの私財運営—

宗次徳二（聞き手 塩見治人）

269

〔美術〕

8 文化芸術あいち百年の軸を担う「あいちトリエンナーレ」

青木 幹晴

280

9 名古屋圏の陶芸家の全国的な位置と将来への可能性

— 大激動の陶芸界 生活環境の変化で—

井上 隆生

290

10 もつと世界に誇りたい、名古屋圏でのやきものづくり

田村 哲

298

〔生活〕

11 ジェンダーの観点から名古屋経済圏を語る — 伝統文化を新たに継承しよう! —

鶴本 花織

312

12 誇るべき故郷 有松の光

13 へ名古屋をフェアトレード・タウンに！という活動

—これまでの目標、実績、将来展望—

14 日間賀島はなぜ愛知県内有数の観光地になりえたのか

—「地産地消」パイオニアの島おこし—

15 住んでみたい街づくり日本一への実践

16 私たちにもできることがある

—「友多互愛」のボランティア活動に参加して—

17 真の住民自治に向けて

第4編 ● NPO活動が地域社会を成熟させる

375

1 ベッドタウンからライフタウンへの転換は可能か

—高蔵寺ニュータウンの地域連携に託す未来図—

中村 俣子

319

土井ゆき子

326

鈴木 甚八

336

長谷川孝一

346

石井三枝子

354

柴田 高伸

363

長尾 哲男

376

2 高齢者が社会の担い手となる地域づくりへの挑戦

―地域が活力を増す元気づくりの処方箋―

黒田 和博 402

3 障がい者の「職」が高齢者の「食」を支える

―「断らない」がもたらす地域の再生と希望―

堀尾 博樹 420

4 和太鼓集団「志多ら」が挑む地域再生の可能性

長谷川 洋二 437

「コラム」

5 高齢者の働きがい、生きがいを同世代の仲間が創造する

―就業支援を通じて高齢者同士が交流―

杉本 和夫 453

6 協同の力でいのち輝く地域をつくる、それは未来を拓く土台

―医療生協による居場所づくり―

杉崎伊津子・山本友子・矢野 孝 459

第5編◎2030年の名古屋圏像 469

1 調査から見えてきた希望の名古屋圏像

梅原浩次郎 470

2 対談・執筆者の思いを語る

梅原浩次郎
477

あとがき

梅原浩次郎
486

編者・執筆者紹介
489

索引
497

ベッドタウンからライフタウンへの転換は可能か 長尾哲男

—高蔵寺ニュータウンの地域連携に託す未来図—



ながお・てつお

1947年生。名古屋市立大学大学院経済学研究科博士後期課

程単位取得退学。専門は都市住宅学。パナソニックエコシステムズ（株）、愛知県

中小企業労働相談員勤務を経て現在、名古屋市立大学大学院研究員、NPO住宅長

期保証支援センター企画推進委員。主な著書に『トヨタショックと愛知経済』、

『名古屋経済圏のグローバル化対応』（いずれも共著、晃洋書房）。

■ポスト・ベッドタウンとは何か―暮らしを支援するNPO―

高蔵寺ニュータウンは、戦後の高度成長期における名古屋市やその近郊に通勤して働く人のベッドタウンとして、多摩ニュータウンに続く全国2番目の大規模住宅団地として開発され、1968年（昭和43年）

から緑山自治地帯に切り替えられた。